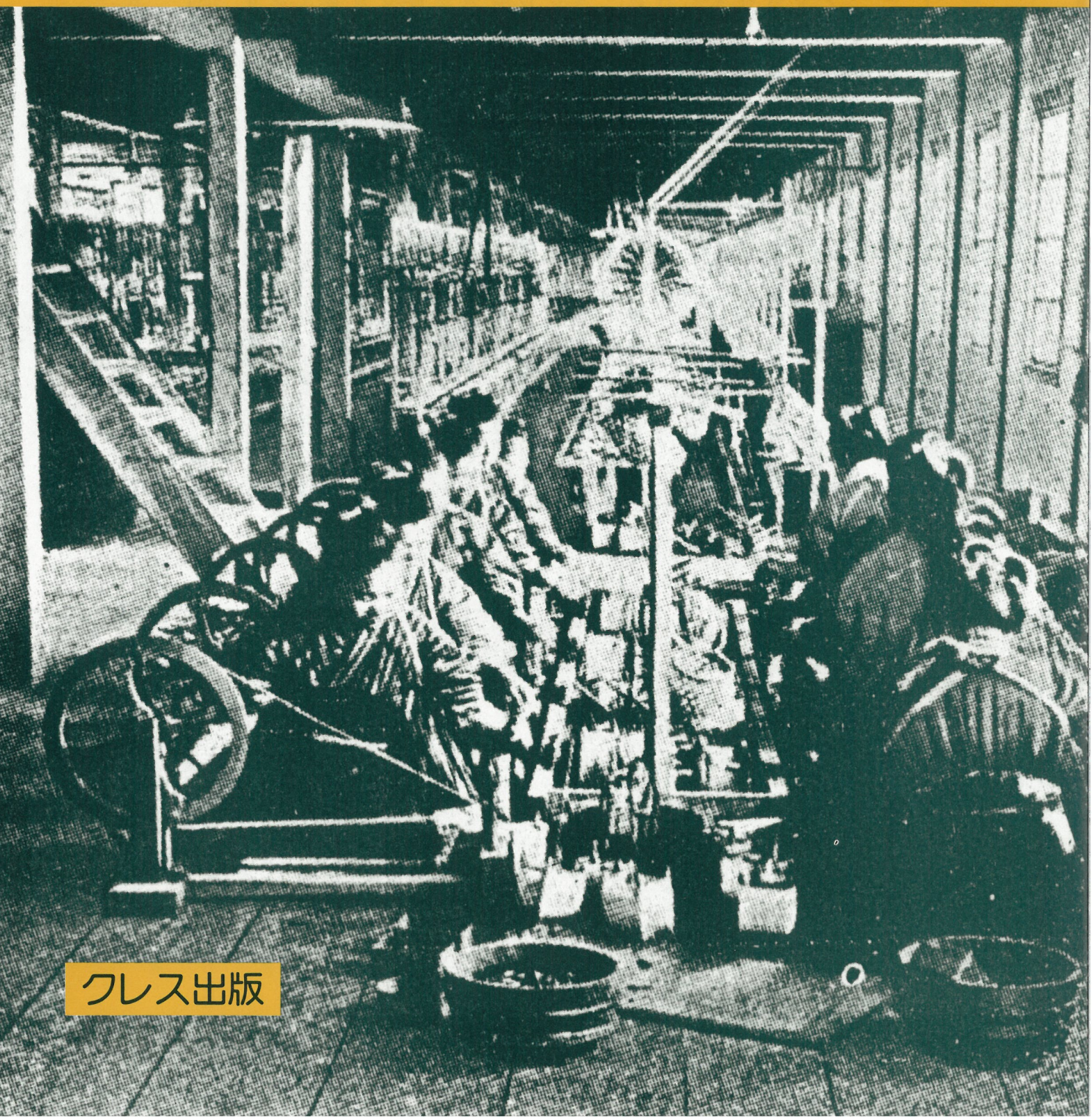


明治大正産業史

全4巻＝昭和3年、帝国通信社『日本産業史』版
近代日本の産業史を「総論」と17業種の「各論」で記述。

萩本 眞一郎解説



クレス出版

この『明治大正産業史』は、昭和三年七月に刊行された『日本産業史』の復刻である。帝国通信社の三五周年記念出版として企画された同書は、「総論」と一七業種の「各種産業沿革史」とからなり、全体で三、七〇〇頁の大著である。

上巻の約三分の一を占める「総論」では、変化を確定し、その原因、背景を實際に起こった事柄に忠実に考察する、シンプルだが力強い思考がみられ現在でも新鮮な記述となっている。たとえば、この時代に「産業政策」という用語を用いて政府の施策の一定の評価を試み、「産業革命を培へるその他の要素」として「産業諸法制」「工業教育及び研究機関の発達」などの指摘を行うなど、当時の研究水準から考えて高く評価できる部分も多い。

総論部分は高橋亀吉の執筆で、同年改造社で刊行された『明治大正産業発達史』の元原稿である。当時高橋は、大正一五年六月に東洋経済を退社し、筆一本で「共産党一派のマルクスの公式的運動理論」に対抗して歴史研究を始めていた。数人の助手を雇い、多くの資料を購入した彼の研究は、帝国通信社と盛んだった当時の原稿需要で支えられていた。それは、資本主義発達史との関係で歴史と歴史解釈に強い関心がみられた、特殊な時代背景の一端を示している。

昭和初年時点の、個別「産業史」も史料的に興味深い。すでに「離陸」を終えた日本経済は、第一次大戦を経て、鉱山、紡績、毛織、製糖、セメント、造船などの有力企業がリードする工業国になっていた。成長と第二次産業革命とが並行して「ビッグ・ビジネス」を生んでいく、新しい段階は準備されていたが、この時点は本格的な展開のとは口にあたっていた。現代の研究者が、産業史を戻ってスタートするのに格好の基準点の一つである。

この『明治大正産業史』では、電力、ガス、交通、産業補助機関などにも多くの分量が充てられている。産業の到達度、比較優位の背景、発展経路（あるいは経路依存）を全体として把握するためには、紡績、造船などの主要な製造業種だけでは十分でない。たとえば一九二九年下期の総資産一億円以上の企業は二六社あり、鉱工業以外の企業が二三社を数えていたことを考えに入れると、本書の編集方針は正しかったといえよう。

「総論」と「各論」とに貫かれている姿勢は、実証的な態度である。この産業史に拾われている事実は、競争と独占に限定されたものでもなく、産業によって記述に差があるものの興味深い、制度や企業、取引や需給状況などを含んでいる。産業は、固有の技術と市場取引形態によって特徴づけられる。最近の新制度派経済学(new institutional economics)、進化経済学(evolutionary economics)などの新たな理論的展開は、技術も市場も効率性だけに関心を払う、素朴で一元的な理解では不十分なことを示している。実証研究においても、市場なり生産システムを進化する制度として把握し、多様な発展経路に目を向けることが求められているといえよう。その意味で、この『明治大正産業史』は、時期的にも内容的にも重要な定点観測の成果といえる。

第一章 製鐵鋼業

第一節 我が國製鐵業の消長

一、維新前後の製鐵業

我國製鐵業の著しく發達し、近代設備を有する様になつたのは最近のことにして八幡製鐵所設立以後に屬する。太古金山彦命の頃既に製鍊の記録は見出だされ、中古大寶令中には鐵鑛探掘許可の條項在り、當時と雖も相當斯業は開發せられたるもの、如きも、多くは和銅即ち砂鐵から製出せられるところのものにして、人力を以てする小規模なる製鐵方法により、現今に比し産出額の極めて少量なりしことは言を俟たざるところである。併し機械力無き時代としてはその發達極度に達して居り、各地海岸線（北海道、福島、千葉、九州の大島等）及び海岸より少しく隔たりたる丘岡（島根、鳥取、岡山、広島、青森、岩手等）に散在したる砂鐵を以てする製鐵業は寛文年間の頃より次第に開け、地方に依りては事業開始後數年間は其の納稅率を輕減する等の保護政策を採り、安政の末年には製鐵

第一章 明治初年の金融業

第一節 商法司及通商司

我國に於て銀行事業の創始並にその發達を見たのは、全く明治維新以後のことに屬する。勿論舊幕時代にも、爲替渡世、掛屋、兩替屋、札差等の金融機關は存したが、夫等は何れも現今の銀行業務の一部分を營んだものに過ぎぬ。

明治初年にあつては、維新の鴻業は兎に角成就したとは云ふもの、庶政混沌として未だその緒に就かず、百艘の制度は依然として舊に倚るの外なかつた。然かも此間に在つて明治政府は農工商の諸業を振作奨励し諸産業を發達せしむるの用意を怠らず、明治元年會計官中に設置せられた商法司、次で夫れに代つて設けられた通商司に於て産業振興、金融疎通の途を講せしめ以て幾分なりとも其効果を擧げむことに努めたのである。

商法司は明治元年閏四月二十五日京都に設立せられ、次で大阪及東京に支署を設けられたが、同二年三月に至り何れも廢止せられた。設立の目的は商業を振作し政府の間接稅收入を増加せしむるにあ

上巻ノ一 明治大正産業発達史

第一編 總論

- 第一章 明治大正産業発達史の地位
- 第二章 明治大正産業発達史の概観
- 第一編 經濟制度の革命時代
- 第二章 維新前の産業状態
- 第三章 維新の經濟革命
- 第四章 旧武士の生産階級化と我が産業の發達
- 第五章 維新当初十年の産業状態
- 第六章 革命整理と發達準備の時代
- 第七章 維新の革命時代の整理
- 第八章 整理期に於ける産業状態
- 第九章 産業政策の直訳主義から現実主義への轉換成る
- 第十章 民間産業發達の素地成る
- 第十一章 整理完了後の企業勃興と産業の發達
- 第十二章 我國産業革命の完成

各種産業沿革史

- 第一章 我が産業革命の進行
- 第二章 我が産業革命の高度化
- 第三章 我が産業革命と其影響
- 第一編 銀行業
 - 第一章 明治初年の金融業
 - 第二章 普通銀行
 - 第三章 貯蓄銀行 附郵便貯金
 - 第四章 日本銀行
 - 第五章 横浜正金銀行
 - 第六章 日本勸業銀行
 - 第七章 農工銀行
 - 第八章 日本興業銀行
 - 第九章 台湾銀行
 - 第十章 朝鮮銀行
 - 第十一章 北海道拓殖銀行
 - 第十二章 信託業及産業組合中央金庫

上巻ノ二

- 第一編 外國貿易と取引所
 - 第一章 外國貿易
 - 第二章 取引所
- 第二編 織維工業
 - 第一章 生糸
 - 第二章 綿糸紡績業
 - 第三章 人造絹糸
 - 第四章 毛織業
 - 第五章 絹織物業
 - 第六章 麻糸紡績業
 - 第七章 メリヤス業
 - 第八章 染色業

下巻ノ一

- 第一編 機械器具工業
 - 第一章 電動機、電氣機械器具其他製造業
 - 第二章 諸機械器具製造業
 - 第三章 車輛業
 - 第四章 造船及び船渠業
- 第二編 化学工業
 - 第一章 製紙工業
 - 第二章 人造肥料
 - 第三章 製菓業
 - 第四章 染料工業
 - 第五章 燐寸工業
 - 第六章 護謨工業
- 第三編 セメント工業
 - 第一章 セメント工業
 - 第二章 陶磁器業
 - 第三章 硝子工業
- 第四編 食料品工業
 - 第一章 製粉業
 - 第二章 製糖業
 - 第三章 醸造業
 - 第四章 罐詰製造業
- 第五編 電力及瓦斯業
 - 第一章 電力供給業
 - 第二章 瓦斯事業

下巻ノ二

- 第一編 交通事業
 - 第一章 本邦海運業発達史
 - 第二章 本邦鉄道
 - 第三章 本邦軌道電車事業発達史
 - 第四章 植民地に於ける鉄道事業発達史
 - 第五章 自動車運輸業発達史
 - 第六章 本邦通信事業発達史
 - 第七章 本邦航空事業発達史
- 第二編 鈦業
 - 第一章 我が鈦業發達の概要
 - 第二章 我國重要鈦業の發達
 - 第三章 我國に於ける石油鈦業
 - 第四章 金屬及び精鍊業
 - 第五章 製鐵鋼業
 - 第六章 伸銅業
 - 第七章 銅工業
 - 第八章 錫力工業
 - 第九章 産業補助機関
 - 第十章 倉庫業
 - 第十一章 各種組合
- 第三編 農業
 - 第一章 維新以降の農業の地位
 - 第二章 我が農業政策
 - 第三章 農業の發達と農業内容の変遷
 - 第四章 農業經濟内部に於ける發達と変遷
 - 第五章 各種農業の趨勢
 - 第六章 米
 - 第七章 蚕業
 - 第八章 林業
 - 第九章 畜産業
 - 第十章 我が農業の行詰と小作争議の勃興
 - 第十一章 本邦水産業發展の概要
 - 第十二章 沿岸漁業の發展
 - 第十三章 遠洋漁業の發展

明治大正産業史

全4巻

(原本=昭和3年、帝国通信社『日本産業史』版)

A5判/上製函入クロス装

揃定価本体80,000円 1999年5月末刊

ISBN4-87733-069-0 C3360

クレス出版好評既刊書

日本国有 鉄道版 日本陸運史料

全5巻 財団法人運輸調査局編 原田勝正解題

『日本陸運十年史-第二次大戦と運輸経済-』と『日本陸運二十年史-第一次大戦末期より日華事変勃発に至るまでの運輸経済-』を復刻。陸運事業、交通史を中心に纏めた書。

揃定価65,000円 ISBN4-906330-34-7

会社統計表

全9巻 武田晴人解題

大正9年から昭和21年までの大企業ばかりでなく、中央地方の中小企業まで統計の対象とした第一級史料。世界恐慌と景気回復、国家総動員体制から戦時経済を「会社」を通じて映しだす。

揃定価300,000円 ISBN4-87733-013-5,014-3

明治運輸史

全3巻 運輸日報社編

近代日本の資本主義確立に大きく貢献した“鉄道と海運”を中心とする運輸業の通史。独自取材による情報、今日では入手困難な文献ソースからの大量の引用が特色。

揃定価55,000円 ISBN4-906330-41-X

本邦経済統計

全8巻 日本銀行調査局編

大正7年版から昭和16年版全23冊を復刻。日本銀行が独自に調査・集計した金融、国際金融、企業財政、物価、労働等のオリジナルな諸統計と諸官庁・機関が公表した諸統計を収録。

揃定価140,000円 ISBN4-906330-35-5

公営交通事業沿革史

戦前篇 全10巻

東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸の各市電気局(現交通局)が刊行した主要な沿革史の集成である。公営交通発達史においてキイとなる公営化過程についての刊行物も併せ収録。

揃定価186,000円 ISBN4-906330-25-8~30-4

物価統計表集成

全5巻 商工省、農商務省

商工省の卸売物価統計表、小売物価統計表、物価統計表、農商務省の物価表を収録し、当該時期の統計資料としてだけでなく、当時の社会に対する新しいアプローチを探る手がかりとなる。

揃定価90,000円 ISBN4-87733-050-X

鉄道技術発達史

全7巻/別巻2 日本国有鉄道編 原田勝正解題

鉄道80年の記念事業として日本国有鉄道鉄道技術研究所が昭和33年より編集刊行したもの。系統的に(施設、電気、車輛と機械、運転、船舶、研究)編集された数少ない通史的著作物。

揃定価200,000円 ISBN4-906330-23-1,24-X

賃金統計表集成

全2巻 商工省、農商務省

商工省の賃金統計表、農商務省の賃金表を収録。当該時期における賃金事情のほか、東京、大阪、神戸など全国13の主要都市の賃金統計であり、都市労働者の実態を分析する資料ともなる。

揃定価47,000円 ISBN4-87733-051-8

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋

☎03(3808)1821 FAX03(3808)1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版